


 RI会長
ゴードン R. マッキナリー

世界に希望を生み出そう

ま
る
が
め

週報

2023.8.31
Vol.61
No.8
(2913)
 会員数 55名 出席者38名・欠席者11名・免除会員10名
 欠席者 麻田・有家・福田・川原・松山・齋賀・松村・山下・横田・山本広
 和泉享-会員

前々回出席率 73.4% (8/17)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会 長 福田 洋子
 幹 事 尾崎 浩太郎
 会報委員長 稲田 達典

お知らせ

- ・ 8月のプログラム
 3 (No.1)-暑気払い家族例会
 10 (No.2)-休会
 17 (No.3)-細則変更に関する投票
 24 (No.4)-クラブフォーラム
 31 (No.4)-会員卓話

- ・ 他RC例会変更

- ・ ニコニコBOX;
 よいことがありました
 秋山憲夫君
 100%出席ありがとうございます
 四宮君

<ニコニコ会計累積/¥73,000>

- ・ がんばるBOX;
 出席できなくて
 尾崎君
 良いことがあるように!
 眞鍋君
 出席100%を終えて
 今年度も頑張ります
 吉田君
 福田会長お元気ですか?
 夏見君
 会員卓話を終えて
 藤井君
 藤井会員の卓話を聞いて
 嬉しくなりました

<がんばる会計累積/¥23,000>

例
会
場
・
事
務
局

丸
亀
市
塩
飽
町
50
-
3
丸
亀
プ
ラ
ザ
ビ
ル

■会長挨拶

円高と円安、日本にとってはどちらがいいのか?

円安のメリット・デメリットについて

円安によって得られる主な恩恵のひとつは輸出需要の拡大です。たとえば、「1ドル＝100円」の場合、日本企業から自動車を輸入している海外企業は、200万円の製品を仕入れるのに2万ドルの資金が必要です。

これが「1ドル＝146円」に変動した場合、200万円の自動車を仕入れるのに必要な資金は約1万3,700ドルと価格が安くなるため、よく売れるようになり、国内製品の輸出需要の増大が期待できます。

一方で、円安は輸入コストの増大につながる点が大きなデメリットです。日本はエネルギー資源に乏しい国であり、燃料資源や工業原料、食材などの多くを輸入に頼っています。そのため、輸出需要が拡大しても輸入コストの増加や輸入原材料費の値上げによって国内物価が上昇し、円安の恩恵を享受できない可能性があります。

■日本が金利を上げられない理由

主要先進国の多くがインフレを抑制するために金利を引き上げるなか、日本は2022年に歴史的な円安に陥った際も当初金利の引き上げをしませんでした。一体なぜ、日本は積極的に金利の引き上げを実施しないのでしょうか。日本が金利の上昇に踏み切れないのには、主に2つの理由があると考えられます。

まず、金利が上がると企業や個人が資金を借りづらくなり、経済活動が抑制されます。それによって消費者の購買意欲が低下すると、さらなる景気の低迷が予測されるからです。また、金利引き上げによって国債という借金を抱えている日本政府の負担額は巨大に膨れ上がり、財政破綻に陥る可能性があるからです。

■幹事報告

・丸亀市国際交流協会より以下のご案内

「日本語教室秋のお楽しみ会」「やさしい日本語を学ぼう！」

■例会事業;会員卓話;藤井紀子会員

初めて知るドイツ

姉妹校提携から姉妹都市提携に至るまでの内容をパワーポイントで交えてお話された。

2011年に初めて訪独した翌年の5月にコンサートと講演会を開催した。日本人のヴィリッヒ日本クラブの会長がヴィリッヒ市は日本に姉妹都市を探しているとのことでヴィリッヒ市は、日系企業が多く、市長が3～4年おきに来日して日系企業の本社を巡っていくそうである。進出している日系企業の一例を挙げると住友電気、ヨネックス、村田機械、大和製鋼など。ヴィリッヒ市の人口は5万人であり市町村合併する前の旧丸亀市の人口が約5万人とのことで同じ人口の数でもあることがわかり話は進められていたが様々な諸問題によりその後の歩みが止まったものの藤井学園との姉妹校を提携する流れができるようになる。

正式に2017年9月に姉妹校提携に至り、2018年3月には初めて姉妹校交流が実現した。その後当時の市長がヴィリッヒ市を訪問することとなる。丸亀市とヴィリッヒ市は姉妹都市を提携する内容の友情宣言に調印。2019年4月にはインバウンドの姉妹校交流が行われ学校が一番忙しい入学時期に日本へ来られたこともあり、また食生活を違いからその調整等で受け入れの苦労もあったが交流も充実した1週間となる。

(裏へ続く)

コロナ禍の中、姉妹校交流も途絶えることになるが2022年8月ヴェリッヒ市からパクシュ市長が丸亀市を訪問して現市長を表敬訪問して一気に流れが加速して姉妹都市提携を正式に結ぶこととなる。パクシュ市長は藤井学園の姉妹校である聖ベルンハルト・ギムナジウムの出身で藤井学園も訪問され聖ベルンハルト・ギムナジウムは自分自身の原点が作られた場所という内容の講演をして頂き、両市は2023年7月7日の七夕の夜に結ばれたとのことである。また、初めて首都であるベルリンを訪れた時のお話もされる。大都市ならではの大きな建物があって緑もたくさんあって現代的な面と自然が絶妙なバランスで調和しているのがとても美しいと感じる。ベルリンの壁、ブランデンブルグ門などとても有名な歴史的建造物を観光された。



①グリーネヴァルト駅(ベルリン近郊の町)
「緑の森」という意味。閑静な街並みの中にある駅。

②グリーネヴァルト駅の17番ホーム
駅舎からほど近い場所に17番ホームというのがあるが使われていないホームになっている。なぜなら当時ユダヤ人が強制収容に運ばれていったところだからである。また、ホームには何年何月何日に何人運ばれていったかが刻まれている。現在もお花が手向けられており、人々の心の中に歴史が刻まれている。ナチスドイツの強制収容所といえばアウシュビッツ収容所を思い浮かびますがアウシュビッツは現在ポーランドの地にあります。収容所はドイツ帝国内に2~3か所だけあったのではなく、ある所には何百か所、またある所には2万か所と書いてあってどれが正しいのかははっきり分からないとのことですが数が多かったことには間違いのないことでした。



③ダッハウの強制収容所(ミュンヘン近郊)
1933年、ヒトラーが政権を取って最初に作った強制収容所。強制収容所というと、ユダヤ人と結びつけて考える方が多いと思いますが最初からユダヤ人が収容されていた訳ではありません。政治犯、共産主義者、社会民主主義者、労働組合員、労働拒否者、ジプシーなどが収容されていたようです。

④ダッハウ強制収容所跡
入口門にはARBEIT MACHT FREIと書かれている。「働けば自由になれる」という意味であるが、もちろん働いても働いても自由になれません。



⑤アウシュビッツ強制収容所跡
入口門にはARBEIT MACHT FREIと書かれている。Bの膨らみが上の方が大きく見える。この門を作ったのも強制労働に従事する人たちですが、彼らがせめてもの抵抗ということで向きを変えたと言われているそうである。
後世から見て、争いごとによって生まれる哀しい過去、暗い過去とならないように、負の歴史を知る場所をこれ以上作らなくても良いように、楽しい未来、明るい未来を築いていかなければならない責任があると感じた。これは平和を謳うロータリークラブの役割に通じる部分だとも感じている。と結びに締め括った。